

審議依頼事項 施策 4-1.子育て支援の推進の目標達成指標について

1. 前回審議会にて（R8.8.5 開催 第3回総合計画審議会）

ご意見

P.23「4-1.子育て支援の推進」の目標達成指標「出生数」について、第2次計画では設定されていなかったがなぜ今回設定したのか。出生数向上を目的とした取組は効果が少ない上、女性差別につながるのではないかと考えている。取組の結果、出生数が増えることは良いと思うが、指標として設定するのは違うのではないか。他自治体の総合計画も確認したが、出生数を指標として設定している自治体は一つもなかった。出生数を目標としている自治体を把握しているのであれば教えていただきたい。

事務局の回答

安心して産み育てることができる環境を整え、こどもを出産する年代の方の転入増加も目指しており、人口規模の維持に重要な要素となる出生数の増加を指標としている。他自治体の総合計画では秋田県鹿角市、香川県高松市などが出生数を指標として設定している。目標に対して、本計画では子育て支援体制の充実や男女双方の協働と柔軟な働き方の整備についても定めることとしており、男女どちらかに義務や負担をかけるような内容ではないため、女性差別には当たらないと考えている。

2. 市民意見募集にて（募集期間 R8.7.17～R8.8.13）

- 目標達成指標の「出生数」「年少人口」を削除するべき
1994年国際人口開発会議において採択された「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(※)の内容の一つとして、「カップルが自分たちの意志でいつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由をもつこと」が挙げられています。したがって、市がこのようなことを管理するのは、人権にかかわる問題としておかしいと考えます。
- 目標達成指標「出生数」について
5～49歳女性人口が減っているので、出生数は必然的に減少してしまう
出生「率」が同じでも、出生「数」は減少してしまいます。
出生数の減少、人口減少を受け入れた社会を目指し、なぜ少子化対策をするのか、に関するビジョンを明確にし、そのビジョンに則った成果指標にするのがよいとおもいます。
出生数を目標にすることは「産む」性を持つ女性への圧力に他ならないと思います。
- 目標達成指標「出生数」について
女性の権利を損なう可能性がある。「パートナーを持つ女性の24%が性行為を断れず、11%は避妊を判断させてもらえない」。人口や出生率については男女不平等が基本的な問題。出産時期や子どもの数は女性が自由に選ぶべき。
- 指標の1つとして、出生数があることに反対です。
出生数と指標にあげていることで、女性の基本的人権であるリプロダクティブ・ヘルス/ライツ(※)を考えていない自治体だと、露呈するからです。市民として、恥ずかしいので、指標に入れないでほしいです。

- 本計画において「子育て支援の推進」の成果指標として掲げられている①年少人口、②子育てしやすいまちと評価する人の割合、③乳幼児健診受診率、④出生数のうち、①年少人口および④出生数は子育て支援施策の成果指標として妥当性を欠くため、指標設定の再検討を求めます。
- 目標達成指標に出生数がありましたが、女性が見たらしんどい思いをする人がいるのではないのでしょうか、はずした方がよいと思います。※どうしてもしたい場合は数ではなく、出生率にしてはどうですか。

(※)性と生殖に関する健康／権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)とは
国連の国際人口開発会議(カイロ、1994年)で提唱された権利。人々が政治的・社会的に左右されず、安全で満ち足りた性生活を営むことができ、子どもを「持つ」「持たない」「何人持つか」を決める自由を持ち、子どもの数、出産時期を自由に決定し、そのための健康を享受できること、またそれに関する情報と手段を得ることができることが認められています。

3. 総合計画の反映について

前回審議会において、事務局より回答は行っておりましたが、その後、市民意見募集においても、当該指標についてご意見をいただいたため、指標の掲載についての審議をお願いいたします。

以下、対応案を提示します。

対応案1

「出生数」「年少人口」という文言に対する様々な受け止め方を踏まえ、以下のような修正・補足を行う。

施策の方針【修正】

こどもを産み育てることを希望する人が、その希望をかなえられ、地域社会全体でこどもの成長や子育ての喜びを実感できるよう、全てのこども・子育て家庭への子育て支援や経済的支援を推進します。また、多様なライフスタイルや価値観が尊重される地域社会づくりを進めるとともに、一人ひとりの生き方に寄り添った子育て施策を推進します。

※目標達成指標の下に注釈【追記】

本指標における出生数は、個人の選択を制限するものではなく、子育てしやすい環境が整った結果として、こどもを産み育てることを希望する人が、その希望をかなえることができた社会の姿を示すものとして位置付けています。

対応案2

「出生数」「年少人口」を削除する。

安心して産み育てることができる環境を整え、こどもを出産する年代の方の転入増加も目指して、「出生数」「年少人口」の目標達成指標を設定したが、対応案1に記載する意図が十分に伝わらず、この目標指標によってしんどい思いをする方がいるのであれば本意ではないため。